

IV 秀人の部屋 “AI”の基礎知識 ～前編～

皆様こんにちは！いつの間にかだいぶ暖かくなってきました今日この頃、お元気ですか？

新年度、新学期、そういった新たなステージが始まる季節になりました。皆、それぞれ緊張と不安、そして新たな希望や期待を持って走り始める、そんな季節だと思います。自分も、じわじわ来る体の微妙な変化(老化とはいいたくない！)に抗いながら、元気に新年度のスタートを切っております！もうとにかく、頑張るしかない！ただただそれだけです！

今号でお伝えするのは、改めてになりますが『AI』です。

割と知ってるようで知らないことがあるのではないのでしょうか？そんなAIの基本的なところを解説していきます。

AI(人工知能)とは？その歴史は？

AIの正式名称は「**Artificial Intelligence (アーティフィシャル・インテリジェンス)**」。
1956年にアメリカのダートマス大学で「人間の知能を機械によって模倣し、機械が人間のように思考や問題解決を行えるようにする」ための「**ダートマス議会**」が行われ、この中で「AI」という名称が生まれました。
AIとは簡単にいうと「人工的に作られた知能」のこと。学ぶ能力や考える能力、データをコンピュータやロボットに与えることで、人間のように認識・予測・判断・推論・提案などを行えるようになります。最大の特徴は、自己学習能力を備えていること。人間と同じように、AIも自ら学習することで知識をさらに広げていくことが可能。AIができることとしては、文章の最適化・翻訳、音声認識によるアシスタント、データの分析・予測、自動運転、医療診断の手助け、不正取引の検出などがあり、生活に関わるものからビジネスまで活用の幅は多岐に渡ります。

1940年代～：AI考案の始まり

AIの概念は1943年に心理学者の**ウォルター・ピッツ氏**が、人間の神経細胞の働きをコンピュータで再現する機械学習「ニューラルネットワーク」というアイデアを提唱したところから始まりました。
その後、イギリスの数学者**アラン・チューリング氏**が対象とする機械に「人間のような知能があるか」を判定する「チューリングテスト」というアイデアを考案。チューリング氏は、電卓すら作られていない時代にコンピュータが人間と同じように会話できることを目指し、AI研究の道筋を作り上げました。

1950年代後半～1970年代：第一次AIブーム到来

第一次AIブームのきっかけは「AI」という名称が生まれた1953年の「**ダートマス会議**」。
研究の中心になったのは「推論」と「探索」。「推論」とは人間が既知の知識をもとに思考する過程を記号で表現する試みのこと。「探索」とは目的達成のために手順や選択肢を調べ、最適な解決策を見つけ出すこと。具体的にはコンピュータがパズルを解いたり、迷路でゴールするための方法を調べるといった技術。そのほか「エキスパートシステム(専門家のように推論や判断ができるシステム)」「自然言語処理」などの技術も生まれました。1966年には初の対話型自然言語処理プログラム「**ELIZA(イライザ)**」が誕生。ELIZAは人間の言葉を解析して、その中のキーワードを定型文に組み込んで返答することができ、今のチャットボット(自動会話プログラム)の元祖となっています。

1980年代～1990年代：第二次AIブーム到来

家庭にもコンピュータが普及したこと、そしてエキスパートシステムが各事業で広く活用されたことなどにより、第二次AIブームが到来。1984年には全ての一般常識をコンピュータに取り込み、人工知能に推論を行わせる「**Cyc(サイク)プロジェクト**」がスタート。また日本でも1982年に日本最初のAI研究プロジェクトとして、知識ベースをもとに推論を行う人工知能型の「**第5世代コンピュータ(Fifth Generation Computing Systems: FGCS)**」の研究・開発が、政府によって進められました。

2000年代～現在：第三次AIブーム突入

第三次AIブームのきっかけは、大量のデータが利用可能になったこと、それを処理するための高速コンピュータが入手可能になったこと。「**ビッグデータ**」と呼ばれる多種多様かつ膨大なデータの記憶や、処理が容易になったことで、AIがデータの規則性を自らが見つけ出して学習する「機械学習」が可能に。その結果、AIに対する基本の考え方がエキスパートシステムから「機械学習」へ変化し実用化。また機械学習の一種である「**ディープラーニング(深層学習)**」の登場により、画像認識、音声認識、自然言語処理などの分野でさらに進化を遂げ、第三次AIブームを加速させました。最近では「ディープラーニング」を用いたAIとして「**チャットGPT**」が話題ですね。この「チャットGPT」は質問を投げかけると数秒で返答してくれる、アメリカのOpenAI社が開発したAIを使ったチャットボットです。

というのがAIの基礎情報、そして歴史でした。次号ではそんなAIでできること、メリットやデメリットのお話をしていきたいと思います！

ASADA 通信

Vol.
119

2026年4月

今月のテーマ

- I **感謝ありがとう**
保険一筋39年感謝をこめて
- II **エネルギー危機**と高市総理の
素早い動きを正しく伝えます
- III テレビでは言わない「**ナフサ在庫**」の
カラクリ 日用品が消えない根拠とは？
- IV 秀人の部屋
“AI”の基礎知識 ～前編～

想いをのせて **感謝** ありがとう

生命保険に携わり39年。振り返れば、オイルショックや震災など、幾度となく『**先が見えない不安**』が世の中を覆うことがありました。

しかし、そのたびに私たちが学んできたのは、『**正しい情報を知り、落ち着いて備えること**』の大切さです。

感謝ありがとう
保険一筋39年感謝をこめて

ASADA通信20周年・MDRT29回取得

いつもASADA通信を読んでいただきありがとうございます。今月号は少しだけ、私自身の歩みについてお話させてください。

私は生命保険に携わり39年になりますが、実は金融、保険のプロとして世界基準の目標とされる『**MDRT**』という資格を、29回連続で取得させていただいております。



タバコより 体に悪い 妻のグチ



信頼と実績で皆様へ愛されて39年！
生命保険・不動産の売却・買い取り すべてお任せください！



株式会社 **ASADA**
オフィス

代表取締役 **麻田 春江**

住所：〒302-0015 茨城県取手市井野台1-7-28 E-mail: officeasada220@gmail.com
TEL: 0297-72-2401 FAX: 0297-72-6217 URL: https://officeasada.com



Ⅱ エネルギー危機と高市総理の素早い動きを正しく伝えます

【今起きていること】

現在、中東情勢の悪化によりエネルギー供給への不安が広がっています。

こうした中、高市総理は3月の日米首脳会談や代替ルートの確保にいち早く動き、米国からの調達を前年比4倍に増やすなど、「年を超えて石油供給を確保できるめどが立った」との心強い発表がありました。

首相官邸の公式発表「出典」

【「来年まで安心」と言える根拠】

現在、日本には約8か月の石油備蓄があります。高市総理は「4月には2割以上、5月には過半の代替調達にめどがついた」と発表しており、この代替調達と備蓄を組み合わせることで、「年を超えて（来年まで）供給を確保できる」という具体的な見通しを示しました。

【ホルムズ海峡を通らない新しいルートをすでに確保している】

高市総理はアメリカとの連携を深め、太平洋経由で届く原油を大幅に増やしました。

また、UAEなどの友好国と協力し、危険な海峡を迂回する『陸のルート（パイプライン）』もフル活用しています。備蓄も8か月分以上あり、来年まで生活に困ることはありません。どうぞご安心ください。

【代替ルートと協力国】

高市総理は、緊迫するホルムズ海峡（イラン近海）を避け、以下の国々やルートでの調達をいち早く進めています。

* アメリカ（パナマ運河ルート）

状況：3月の日米首脳会談で輸入拡大に合意。5月には前年比約4倍の調達を見込んでいます。シェールオイルの増産を背景に日本への供給を大幅に増やしています。

安心ポイント：中東を通らずに太平洋を渡って直接日本へ届くため、紛争の影響を全く受けません。

* UAE（アラブ首長国連邦）

状況：UAE大統領と電話会談を行い、協力を確認。日本にとって最大の供給国の一つであり、非常に友好的な関係を維持しています。

代替ルート：ホルムズ海峡を通らず、陸上のパイプラインで反対側の海（オマーン湾など）へ原油を運び、そこから船で日本へ送るルートを強化しています。



* その他の中東諸国

状況：サウジアラビアなど、海峡の外側に積み出し港を持つ国々からの調達に注力しています。依然として最大の柱ですが、依存度を分散させる動きが今進んでいます。クウェートは、安定した供給源として重要なパートナーです。

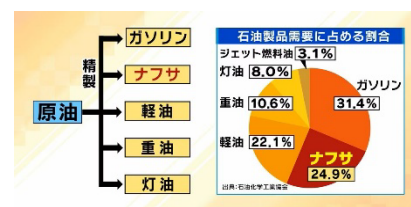
【～高市内閣 最新ニュース 4月12日自民党大会より～】

決してメディアでは伝えない高市総理の魂のメッセージ！

国民の皆さま！私達は日本国のために日本を守り、未来を開けるのは強い自民党です！
私が先頭に立ち「念(おも)い」を同じくする仲間と力を合わせて必ずやり抜きます！

Ⅲ テレビでは言わない「ナフサ在庫」のカラクリ 日用品が消えない根拠とは？

中東情勢を受け、安定供給が懸念されている「ナフサ」について、高市総理は5日、自身のXを更新し、中東以外からの輸入量を倍増することで、ポリエチレンなど「ナフサ」由来の化学製品の在庫期間が「半年以上」に伸びるとの見通しを示しました。

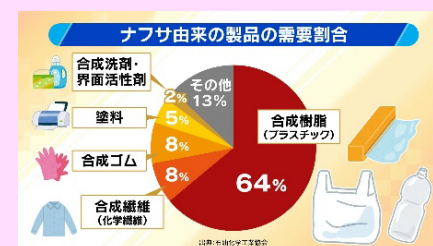


ホルムズ海峡の事実上の封鎖により、プラスチックなどの石油化学製品の原料となる「ナフサ」の安定供給への懸念が広がっていますが、すでに調達済みの輸入ナフサが2か月分、ポリエチレンなどのナフサから作られる中間段階の化学製品の在庫が2か月分、あわせて少なくとも国内需要の4か月分を確保していると現状を説明しました。

その上で、世界から新たな調達を強化し、国民生活と経済活動に影響が出ないよう安定供給の確保に全力で取り組むと意欲を示しました。

実はこんなに身近！ナフサから守られている私たちの暮らし

メディアが「在庫がない」と報じるナフサですが、実際は製品としての在庫や代替ルートでの輸入により、以下の日用品もしっかり守られています。



1. キッチン・お掃除用品（衛生の安心）☒確保済み

- * ポリ袋・ゴミ袋・レジ袋：毎日使うものだからこそ、備えは万全です。
- * 食品用ラップ：鮮度を守るラップも、原料の確保が進んでいます。
- * 洗剤のボトル：シャンプーや洗剤のプラスチック容器も、国内生産が続きます。
- * スポンジ：台所用品の多くがナフサ由来ですが、在庫は十分です。

2. 衣類・ファッション（おしゃれの安心）☒確保済み

- * ポリエステル・ナイロンの服：速乾性のあるスポーツウェアや下着など。
- * 合成皮革の靴やバッグ：軽くて丈夫な素材も代替ルートで守られています。
- * フリース素材：秋口に向けた準備の心配はありません。

3. 育児・介護・医療（家族の安心）☒確保済み

- * 紙おむつ：吸水ポリマーもナフサから作られますが、優先的に確保されています。
- * 医療用手袋・マスク：衛生管理に欠かせない不織布なども、供給が止まることはありません。

4. 住まい・乗り物（移動の安心）☒確保済み

- * タイヤ：自動車のタイヤに含まれる合成ゴムも、ナフサが原料です。
- * おもちゃ：お子様や、お孫様が遊ぶプラスチック製おもちゃ。
- * 断熱材：お家の快適さを守る素材も、しっかりストックされています。

これだけ多くのものが、高市総理の迅速な決断と企業努力で守られています。慌てて買いだめをする必要はありません。メディアの煽(あお)る声に惑わされず、どうぞ安心していつも通りの日常をお過ごしください。

今回、高市総理が迅速にエネルギーやナフサの代替ルートを確保したことは、まさに国レベルの『大きな保険』と言えるでしょう。

39年前も今も、私の願いは一つ。皆様の安心した笑顔が続くことです。

今月号も、感謝を込めてお届けいたします。麻田 春江

